

特別支援教育指導案

指導者 向井 紋子

日時 平成29年11月18日(土) 第3校時 (13:15~14:05)

年組 中学校第3学年3組 計4名(男子3名, 女子1名)

場所 中学校第3学年3組教室

単元 わたしの『トリセツ』

単元について

本学級は中・軽度の知的特別支援学級である。比較的規模の大きな学級集団であることを生かし、将来の社会的自立をめざし、生徒相互のかかわりを大切にしながら生活力を高める指導・支援を行っている。本学級の生徒は、これまでの学校生活の中で、絆を深め、お互いを信頼している様子がうかがえる。話し合いの場面では、自分の意見をはっきりと伝えられ、結論に折り合いを付けることもできるようになってきた。また、よくないところを指摘し、よいところは賞賛することができる。

これまで職場体験、卒業生を招いての卒業後の生活のインタビュー、製品作りから販売までを行う実習など、職業観について多角的に学習を積み重ねてきた。障害のある本学級の生徒は、具体的な進路の選択肢が限られる傾向にある。そのため、『自らの生き方の選択する力』をつけ、自分らしい進路を考え、選択し、実行する姿を目指したい。本単元はわたしの『トリセツ』の作成を通して、自分と向き合い、自分の良さや自分の目指す姿を明確にすると共に、自分の苦手とするところについても向き合い、他者からどんな支援を受けると生きやすくなるかを考えられるように設定した。自分の本当の姿が見えてくることで、自分自身をコントロールできるようになり、生きやすくなるのではないかと期待する。わたしの『トリセツ』の作成は、自分で作成したものを仲間に披露し、より相手に自分のことが伝わるようどう表現すればよいか、仲間からアドバイスももらう。「こんなことも得意だよ」や「あの時の〇〇さんは頼りになったよ」など、自分では気づいていなかった自分の良さを知ることで、自己肯定感が高まり、卒業を目前にし、入試の面接での受け答えや、新しい仲間との出会いの中で自分をアピールしていかなければいけない場面で、自信を持って自分をアピールできると考えた。

指導に当たって、自分自身でじっくりと自分と向き合う場面と、他者からのアドバイスももらう場面を設定し、アドバイスももらうことで、自分に対する理解を深めさせることをねらいとするとともに、自分の考えと他者の考えを理解し、他者との関わりを通して多様性を育みたい。また、より自分を知った状況で面接練習に取りかかり、自信を持ってアピールできたし、お互いの面接練習を観察しアドバイスをしあい、より充実した練習ができたりすることをめざす。

指導目標

自己の興味・関心に基づいたプランニングを通して、進路を自ら切り拓こうとする意欲を育てる。

指導計画(全7時間)

- 第一次 わたしの『トリセツ』の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3時間
- 第二次 『トリセツ』の交流～『トリセツ』の深化・仲間から見た自分～・・・・・・3時間(本時2/3)
- 第三次 面接練習に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

本時の目標

- ・わたしの『トリセツ』を発表し、自分のことを仲間にアピールすることができる。
- ・仲間の発表を聞き、その仲間の良さやエピソードなどを、アドバイスすることができる。

本時に関わる、生徒の実態と個別の目標、支援

生徒	本時関わる実態	個別の目標	目標達成のための支援
I	書くことをはじめとし、多くの作業に時間がかかるが、集中力があり、自分でやり切ろうとする意欲はとても強い。 滑舌が悪く早口になりやすいが、発表意欲は高い。	自分の『トリセツ』をゆっくり落ち着いて、発表できる。	発表項目を指さししながら発表し、確実に相手に伝わるよう意識できるようにする。
J	文章に書くことに対する苦手意識は強いが、書きたい気持ちは持っている。 発表することにとっても緊張を感じるが、かっこよく発表したい気持ちは強い。	自分の『トリセツ』をきちんとした態度で自信を持って、発表できる。	下を向かずに発表できるよう、『トリセツ』を黒板に掲示する。 差し棒を使用し、かっこいい発表を目指す。
K	簡単な表現や短い文章ではあるが、自分の思いを文章で表現できる。	仲間の発表を聞き、アドバイスができる。 アドバイスの個数を自分で設定し、その数以上のアドバイスが言えるよう努力する。	発表内容を聞き取りやすくするため、発表者の『トリセツ』は黒板に掲示する。 アドバイスの個数をあらかじめ本人と相談し、決めておく。
L	文章で表現することに抵抗がなく、文章の言い回しも自分で不適切な部分を修正できる。 発表を聞き、内容を理解することができる。	仲間の発表を聞き、その人のエピソードを交えながら、アドバイスができる。	アドバイス記入用紙を準備し、具体的な場面やエピソードを交えたアドバイスができるようにする。

学びを豊かにするための手立て

わたしの『トリセツ』の作成を、年度初めに行う自己紹介のための学習に留めず、学習時期を変えて2学期以降に設定した。卒業を目前にし、入試の面接での受け答えや、新しい仲間との出会いの中で自分をアピールしていかなければいけない場面を想定し、自分のことを他者に語らなければいけないという状況から、やる気を起こしやすい時期と考えた。また、進路希望が明確になってきている時期で、自分がどうなりたいのか、そのために自分の良さをどう活かすのか、自分に難しいことを他者にどう伝えどう助けを受けるのか、自己分析ができはじめているこの時期に作成することで、より詳しい私の『トリセツ』の作成を目指そうとし、主体性をもって取り組むことができると考えた。

さらに、自分を深く知るために、気心の知れた仲間から自分がどう見えているか意見を聞く場面を設定した。ともに多くの時間を過ごし、エピソードを共有している仲間の意見によって新しい気づきがあり、より深く自分と向き合え、自己肯定感を高めて、自信をもって自分をアピールできることから、多様性・協働性などを育み、学びを豊かにできると考えた。

学習の展開

	学習活動 (□) と評価 (◆)	指導上の留意点 (・) 支援 (■)
導入 10分	<p>本時の学習について</p> <p>□挨拶をする。</p> <p>□本時の学習目標を確認する。</p> <p>①自分の『トリセツ』を発表し、アドバイスをもらう</p> <p>②仲間の『トリセツ』の発表を聞き、よりわかりやすい『トリセツ』になるようアドバイスをする。</p> <p>③前時の発表の様子を振り返り、発表態度やアドバイスの内容を思い出す。</p>	<p>■前時の学習を振り返り、本時の自分の目指す姿をイメージできるようにする。</p>
展開 35分	<p>□『トリセツ』を発表する。</p> <p>◆発表項目を指さししながら発表し、確実に相手に伝わるよう意識できるようにする。・・・A</p> <p>◆下を向かずに発表できるよう、『トリセツ』を黒板に掲示する。差し棒を使用し、カッコいい発表を目指す。・・・B</p> <p>□アドバイスを考える。</p> <p>◆アドバイスの個数を自分で設定し、その数以上のアドバイスが言えるよう努力する。・・・C</p> <p>◆仲間の発表を聞き、その人のエピソードを交えながら、アドバイスができる。・・・D</p>	<p>■発表者は発表項目を指さししながら発表できるように、傍聴者は発表内容を聞き取りやすくするため、『トリセツ』は拡大し掲示する。</p> <p>■差し棒を準備し、カッコいい発表の雰囲気作りをする。</p> <p>■アドバイスの個数をあらかじめ本人と相談し、決めておく。</p> <p>■アドバイス記入用紙を準備し、具体的な場面やエピソードを交えたアドバイスができるようにする。</p>
まとめ 5分	<p>□次時の学習内容の確認</p> <p>次時の学習で、もらったアドバイスを参考にしながら、さらに自分の『トリセツ』に書き加えていくことを知る。</p>	

準備物

模造紙大に拡大した私の『トリセツ』, 差し棒, ワークシート (アドバイス記入用紙)

座席表

